

住めば都

はじめまして。
ただ美食を求める男です

あらためまして茨城県鹿嶋市で農業しています、唐澤秀と申します。鹿嶋パラダイスという農業集団の主をしています。この世にパラダイスをつくろうと5年前に鹿嶋市に移住し、耕しています。

僕は農家に憧れていたわけでもなく、農的な生活をしたかったわけでもなく、ただ美味しいものが食べたい。しかもただの美味しいではなく、官能の域まで達する程の美味しさを求めた。

日本も世界も、ある程度は各地を

材。かの有名な俳人にして食通の北大路魯山人の美味しさの9割は素材で決まるとの言葉もある。

素材の美味しさは品種×栽培法、割合は8対2。美味しくなるDNAをもつこと、肥料はなし、もしくはほんの微量を使うのみ。これが黄金比とされている。以前は有機肥料を使ったものが一番であったが、自然栽培に出会ってからは無肥料が一番という確信を持っている。

在来種もいい。F1種でも美味しいのはあるけれども、在来種の方が全身の細胞遺伝子に響く感じがする。食べ物って美味しくなければ意味が無いように思える。化学一辺倒の

歩いて、美味しいと言われるものを食べてきたけれども官能的なうまさとなるとなかなかそこまではない。官能的なうまさを探っていくと、

結局素材に突き当たるところ。調理人の腕も大切だが詰まるところ、素

今の栄養学なんて大嫌いだし、美味しくないものは、それだけで罪であり自然から頂いた食べ物に対する冒涇だと思っている。

さて、そんな僕ですが、とりあえず今回は、欧州巡りの中で印象に

残ったイタリア紀行パエストゥムについて書きたいと思う。

素材から最終商品まで
こだわって作ることに感銘

イタリアのナポリから車で南西に

第1回

モッツアレラチーズのために、人は海を渡ってしまう

農業経営者の特権、それは美味しい食材に確実にありつけることではないか。

だが、普段は案外見逃されがちなのこのことに気付けば、

もっと農業が楽しくなるかもしれない——。

農業界きっての美食家!? 鹿嶋パラダイス・唐澤秀が語る、

農業と食の可能性とは。

耕せば楽園

100km。ギリシャの植民地でもあった古代遺跡の街、それがバエストゥムである。遺跡と並んで有名なのが水牛のモツツアラチーズだ。かの有名なナポリピッツァはこの水牛由来のモツツアラチーズを

使ってなければナポリピッツァと名

乗れない決まりがあるのだ。また、水牛の乳量はホルスタインの半分以下で、乳脂肪分は2倍あるという。

そこに Vanulo (ヴァンヌーロ) という、イタリアで唯一有機認証をとった、水牛の牧場がある。

ここは畑で牧草を作るところからチーズを作り販売するところまで自分たちで一貫してやっている。しかも水牛の革製品を製造販売する工房まで備えている。

彼らは安心・安全でかつ美味しいものをつくるにはこの方法しかなかったと言いながら、一貫してやることを誇らしげに語っていた。

モツツアラチーズは毎朝の11時までにその日の分が作り上げられ、13時までには全て売り切れてしまう。開店前は毎日行列。

「輸出はしないのか? 日本でも食べたい人はたくさんいる」と聞くと、笑いながら「2時間で毎日売切れてしまうんだよ、どうやったら輸出で

きるんだい?」といわれた。そりゃそうだ。

泊まったアグリツーリズモはモツツアラチーズを目的にきたドイツとフィンランドの家族と一緒にあった。1つの長テールで自家製ワインを酌み交わしながらいろんなことを話したが、そこでこんなことを思った。

「わざわざモツツアラチーズひとつのために、遠くドイツやフィンランドから来るんだ、すげえなあこの人たち、……いや待てよ、考えてみたら僕は極東から来ているではないか、僕が一番スゴいじゃないか!」と(笑)。

でも、すぐに別の考えが頭に浮んだ。

「いやいや、違う違う……、極東の人間をわざわざココまで来させるくらい魅力がこのモツツアラチーズにはあるってことだ、やばいスゴすぎる!!」

ここで学んだこと、2つ。素材から一貫したコタワリでモノ作りをすること、そして海外からわざわざこのモノを食べたいと切に思うような魅力的なモノを作っているということだった。

これがパラダイス建設にむけての重要な考え方になったのだった。



唐沢 秀

からさわ・しゅう ●1976年静岡県浜松市生まれ。明治大学農学部卒業後、1年間の就職浪人を経て2000年(有)農業生産法人茨城白菜栽培組合入社。ハクサイの生産から出荷までのマネジメント業務全般に携わる。08年同社を退社し、独立。屋号を「鹿嶋パラダイス」とする。全品目において無農薬、無肥料の自然栽培を行なっている。水田1.2ha、ハウス10a、露地5ha。今春には鹿嶋参道に直営飲食店「楽田家」をオープン。

<http://kashima-paradise.com/>